（別記）

令和８年度涌谷地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

涌谷町は大崎平野の東に位置し、南を江合川、北を迫川、東を北上川に囲まれ、水量豊富で水利に富み、中央部は箟岳山と加護坊山を結ぶ丘陵が東から西方向にのび、その南側及び北側に耕地が広がっている。古くから「ササニシキ」や「ひとめぼれ」に代表される良質米の主産地であり、水稲を基幹作物としながら繁殖牛・小ねぎ・ほうれん草等の優良農畜産物を産する県内でも有数の町で、国の食糧供給地域として重要な役割を果たしてきた。

現在、町内では３つの地区で大区画ほ場整備事業を実施しており、今後更に水田をフルに活用した土地利用型農業・高収益作物の生産性向上等を進めていく必要がある。

一方、農業者の高齢化が進んでおり、今後更に高齢化が進むことで、農業従事者、農家戸数も年々減少していくものと見込まれるため集落営農、法人、認定農業者等への集積・集約化の推進が必要である。

主食用米の生産については、良質米の産地として需要に応じた数量確保に努めており、今後の人口減少等に対応するため、国、宮城県から示された生産の目安を生産量とし、非主食用米などの作物に転換することで、米価維持を図り、農業者所得の確保を図っていく。

麦については、小麦の輸入量に不透明感があることから、実需者が国内産にシフトしている。単収向上の推進による数量確保と同時に、団地化や新技術導入の支援によりコスト削減にも取り組んでいく。

大豆については当地域内で需要もあり、需要量を満たすための生産拡大を推進する必要がある。

飼料作物については、飼料高騰も長期化していることから、飼料自給率を図るうえで、青刈りとうもろこしや子実用とうもろこしの取組を増加させていく。

新規需要米については、飼料用米・新市場開拓米の生産により対応する計画であり、WCS 用稲については、畜産農家や実需者の需要量に応じた生産を行うことが必要である。

以上を踏まえ、水田をフルに活用し主食用米はもとより、麦・大豆の産地化をはじめ、飼料用米や新市場開拓用米の推進、また露地野菜等の土地利用型園芸や施設園芸の生産拡大を図るとともに担い手等への農地集積・集約化により当地域の安定かつ特色ある水田農業の確立に向け推進していく。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

涌谷地域は平成に入ってから水稲＋小ねぎ・ほうれん草を軸に複合経営を推進してきたが、当初始めた農業者の高齢化・後継者問題等で減少傾向にあり、複合経営から施設野菜の単一経営で規模拡大し、法人化も進んできている。

水田収益力強化ビジョンで推進している小ねぎ・長ねぎ・青ねぎは、市場向けと加工販売が定着し、加えて実需からの要望でたまねぎの生産が拡大する予定となっており、生産体制の整備を国や県の補助事業を活用し大規模露地園芸を推進することで、収益を確保する。

現在ほ場整備事業が実施・計画されている地区（出来川左岸上流地区・下流地区）において、長ねぎ・青ねぎ・たまねぎ・子実用とうもろこしを水田農業高収益化推進計画に定め、水稲・麦・大豆・子実用とうもろこし・露地野菜を含めたブロックローテーションを行い、転作後の圃場は土壌診断を実施した上で、業務用米や飼料用米を低コストで生産できるよう推進していく。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

米中心の営農体系から野菜等の高収益作物を導入した営農体系への転換など、農業者の自立的な経営判断に基づく生産を促すため、水田における畑作物の導入と品質向上・収量増を可能とする水田の畑地化や畑作物に軸足を置いた汎用化を推進する必要がある。

涌谷地域は現在３地区のほ場整備事業（鹿飼沼地区・出来川左岸上流地区・出来川左岸下流地区）があり、特に西地区は小ねぎ・ほうれん草・みず菜・長ねぎ・青ねぎの生産が盛んなことから、ほ場整備事業の進捗に合わせ、長ねぎ・青ねぎ・たまねぎの露地野菜を計画しており、国・県の補助事業等の導入も検討しながら畑地化の推進を図る。

また、水田の利用状況を点検した結果、畑作物の作付けが固定されている水田が約82ha あったことから、令和 8 年度までに国の畑地化促進事業を活用しつつ、畑地化を促していくことと、連作障害における減収を回避するため、水稲を組み入れたブロックローテーションの更なる推進を図る。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

米の需要を見極めつつ、食の安全性が重要視される状況になっているため、生産履歴記帳の定着化を推進し、本町作物の安全性をアピールしていく。

市場評価の高い「売れる米」を生産するために、転作ブロックローテーションを推進し、転作後地の高タンパク米回避のため業務用米「まなむすめ」「萌えみのり」の作付けを普及する。

また、実需者から要望される米を確保していくために、常温除湿乾燥で自然乾燥米に近いカントリーエレベーター米や特別栽培米等のこだわり米を推進していくとともに、こだわり米として低タンパクな「ササニシキ」や良食味「ひとめぼれ」など主力とし、健康志向の「金のいぶき」を推進していく。

作期の分散により低温また高温等からの危険分散を図り、高品質な米の栽培を目指す晩期栽培の取組を拡大していく。

水稲栽培の低コスト化を図るために、担い手への土地利用集積や乾田直播栽培、機

械の共同利用、無人ヘリ・ドローンによる共同防除等を推進していく。

（２）備蓄米

国から配分される県別優先枠の作付けは、需給調整の手段として安定的に活用できることから、継続的に維持･確保していく。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

需要に応じた麦･大豆、備蓄米の作付けを最大限に行った上で水田フル活用の基幹作物として、団地化や直播栽培等による低コスト化を図り、実需者の需要量に応えるため、一般品種から多収品種に切り替え反収の増加を図っていく。

イ　米粉用米

米粉用米については、小麦の代替としてだけではなく、グルテンフリー食品等、新たな用途として需要の拡大が期待されていることから、実需者の動向を踏まえ、取組を検討する。

ウ　新市場開拓用米

国内の主食用米需要が低迷する中、高品質な国産米を生産することで、米価維持を図る観点から生産拡大について検討する。

エ　WCS 用稲

WCS 用稲については、飼料高騰が長期化していることから、畜産農家の生産戸数を増加させ、団地化や集積により低コスト化等を図りながら畜産農家との連携を推進する。

オ　加工用米

加工用米については、農業者が取り組みやすい米対応の転作作物であることから、販売先の確保、また担い手に集積することでコスト縮減を図るため、生産拡大について検討する。

（４）麦、大豆、飼料作物

ア　麦

小麦については、実需者と播種前契約を結ぶことから、実需者ニーズを満たす数量を生産するとともに、実需者が求める加工のし易さ、また、高タンパク質の麦を生産するため、定着化した夏黄金の生産拡大を進めながら、栽培管理、安全と安心のための栽培履歴の記帳を徹底していく。

単年毎のブロックローテーションによる固定団地で取り組んでおり、今後とも団地化等により生産コストの低減を推進していく。後作に大豆を播種する二毛作を取り入れた農用地の活用による生産拡大を図り、適期播種による高品質な小麦の生産と作付面積に応じた採種圃を設定していく。

大麦については、大豆二毛作体系の普及に向けて実需者要望を検証しつつ、作付目標に向け取り組む。

イ　大豆

大豆については、実需者と播種前契約を基本にニーズを満たす数量を生産するとともに、栽培暦に基づいた高品質栽培管理や栽培履歴記帳の徹底を図る。

団地化により生産コストの削減を図り、１年１作による適期播種の推進とあわせ

麦後作の二毛作を取り入れた農用地の活用による生産拡大、適期播種による高品質な大豆の生産と 300A 技術等の取組を推進し、安全安心で高品質･高単収の大豆を生産していく。

また、ミヤギシロメでの「まちの豆腐屋プロジェクト」による６次産業化の普及・定着を図るため生産拡大を推進する。

ウ　飼料作物

飼料作物については、農用地の有効活用による良質粗飼料の生産を基本に地域内粗飼料自給率の向上を図るため、産地交付金を活用し団地化による作業集積や二毛作を推進するとともに、汎用型飼料収穫機の使用により良質のホールクロップサイレージやデントコーンサイレージの生産を推進していく。また、飼料価格が高止まりの様相があることから、子実用とうもろこしの生産拡大を促し、生産者のみならず畜産農家の経営コスト縮減を図る。

（５）そば、なたね

取組なし

（６）地力増進作物

取組なし

（７）高収益作物

収益性の高い農業を目指し、水田を活用した加工・業務用野菜など土地利用型園芸を推進するとともに、施設園芸の規模拡大等及び露地野菜への取組を支援し、農家所得の向上を図る。

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	1845.3	0.0	1886.8	0.0	1510.0	0.0
備蓄米	0.0	0.0	20.0	0.0	24.0	0.0
飼料用米	60.3	0.0	10.0	0.0	160.0	0.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0
WCS用稲	23.5	0.0	30.0	0.0	35.0	0.0
加工用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麦	183.3	0.0	165.0	0.0	200.0	0.0
大豆	355.4	88.5	370.0	89.0	450.0	100.0
飼料作物	191.2	21.7	175.0	22.0	300.0	55.0
・子実用とうもろこし	53.1	0.0	40.0	0.0	75.0	0.0
・青刈りとうもろこし	21.9	15.7	22.0	15.0	42.0	20.0
そば	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地力増進作物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高収益作物	20.9	0.0	23.1	0.0	28.0	0.0
・野菜	20.9	0.0	23.1	0.0	27.0	0.0
たまねぎ	2.9	0.0	4.7	0.0	6.0	0.0
食用かんしょ	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0
トマト	1.5	0.0	1.5	0.0	1.0	0.0
にんじん	0.2	0.0	0.2	0.0	1.0	0.0
長ねぎ	9.8	0.0	10.0	0.0	8.0	0.0
ブロッコリー	0.8	0.0	1.0	0.0	1.5	0.0
青ねぎ	4.0	0.0	4.0	0.0	6.0	0.0
未成熟そらまめ	1.7	0.0	1.7	0.0	2.0	0.0
・花き・花木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
・果樹	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
・その他の高収益作物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
畑地化	7.5	0.0	7.5	0.0	7.5	0.0

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦（基幹作物）	団地加算助成（麦）	300a以上の連坦団地化 10a当たり労働時間	（令和7年度）157.8ha （令和7年度）2.8h/10a	（令和8年度）200ha （令和8年度）2.6h/10a
2	大豆（基幹作物）	団地加算助成（大豆）	300a以上の連坦団地化 10a当たり労働時間	（令和7年度）169.6ha （令和7年度）3.5h/10a	（令和8年度）350ha （令和8年度）2.9h/10a
3	飼料作物（基幹作物）青刈りとうもろこし、子実用とうもろこし、イタリアンライグラス、リードカナリーグラス、ソルゴー、青刈りヒエ、オーチャードグラス、チモシー、スーダングラス、ライムギ、エン麦	団地加算助成（飼料作物）	飼料作物団地化面積 10aあたりの労働時間 青刈りとうもろこし 子実用とうもろこし その他飼料作物	（令和7年度）143.2ha （令和7年度）3.5h/10a 2.6h/10a 4.6h/10a	（令和8年度）245ha （令和8年度）3.3h/10a 2.2h/10a 4.3h/10a
4	大豆（ﾐﾔｷﾞｼﾛﾒ） （基幹作物・二毛作）	地域特産品加算（大豆）	生産面積 10aあたりの収量	（令和7年度）105.9ha （令和7年度）169kg/10a	（令和8年度）280ha （令和8年度）210kg/10a
5	飼料作物 （青刈りとうもろこし） （基幹作物・二毛作）	青刈りとうもろこし 加算（飼料作物）	作付面積 飼料作物全面積における青刈りとうもろこしの取組割合 10aあたり労働時間	（令和7年度）37.6ha （令和7年度）19.7% 3.6h/10a	（令和8年度）42ha （令和8年度）23% 3.3h/10a
6	大豆・飼料作物（ｲﾀﾘｱﾝﾗｲｸﾞﾗｽ・ｽｰﾀﾞﾝｸﾞﾗｽ、ﾘｰﾄﾞｶﾅﾘｰｸﾞﾗｽ、エン麦、青刈りとうもろこし、ﾁﾓｼｰ、ｿﾙｺﾞｰ、ライ麦）（二毛作）	大豆・飼料作物 二毛作助成（二毛作）	二毛作取組面積 戦略作物（基幹作物）及び野菜作付面積の内二毛作に取り組んでいる割合	（令和7年度）110.2ha （令和7年度）14.9%	（令和8年度）195ha （令和8年度）32%
7	飼料用米生産ほ場の稲わら （基幹作物）	稲わら利用助成 （耕畜連携）	飼料用米生産面積 うち稲わら利用取組面積 （割合）	（令和7年度）60.3ha （令和7年度）31.7ha （52.6%）	（令和8年度）160ha （令和8年度）136ha （85%）
8	たまねぎ、長ねぎ、にんじん、そらまめ、青ねぎ、ブロッコリー、トマト、食用かんしょ、せり、子実用とうもろこし （基幹作物）	地域振興作物助成	地域振興作物 の作付面積 子実用とうもろこし 10a当たりの収量	（令和7年度）68.6ha （令和7年度）612kg/10a	（令和8年度）100ha （令和8年度）700kg/10a
9	麦・大豆（基幹作物）	土づくり助成	麦大豆全作付面積のうち堆肥を施用した面積 （割合）	（令和7年度）539haのうち 141ha （26.2%）	（令和8年度）600haのうち 300ha （50%）

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：宮城県

協議会名：涌谷地域農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	団地加算助成（麦）	1	8,000	麦（基幹作物）	300a以上の団地化
2	団地加算助成（大豆）	1	8,000	大豆（基幹作物）	300a以上の団地化
3	団地加算助成（飼料作物）	1	4,000	飼料作物（基幹作物）青刈りとうもろこし、子実用とうもろこし、イタリアンライグラス、リードカナリーグラス、ソルゴー、青刈りヒエ、オーチャードグラス、チモシー、スーダングラス、ライムギ、エン麦	80a以上の団地化
4	地域特産品加算（大豆）	1	3,000	大豆（ミヤギシロメ）（基幹作物）	大豆300A技術を導入し、ミヤギシロメを生産する
4	地域特産品加算（大豆）（二毛作）	2	3,000	大豆（ミヤギシロメ）（二毛作）	大豆300A技術を導入し、ミヤギシロメを生産する
5	青刈りとうもろこし加算（飼料作物）	1	4,000	飼料作物（青刈りとうもろこし）（基幹作物）	青刈りとうもろこしを生産
5	青刈りとうもろこし加算（飼料作物・二毛作）	2	4,000	飼料作物（青刈りとうもろこし）（二毛作）	対象作物を戦略作物同士の組み合わせにより生産する
6	大豆・飼料作物二毛作助成（二毛作）	2	13,000	大豆・飼料作物（ｲﾀﾘｱﾝﾗｲｸﾞﾗｽ・ｽｰﾀﾞﾝｸﾞﾗｽ、ﾘｰﾄﾞｶﾅﾘｰｸﾞﾗｽ、エン麦、青刈りとうもろこし、ｵｰﾁｬｰﾄﾞ、ﾁﾓｼｰ、ｿﾙｺﾞｰ、ライ麦）（二毛作）	対象作物を戦略作物同士の組み合わせにより生産する。もしくは整理番号8に定める野菜等の後に大豆・飼料作物により二毛作を行う。
7	稲わら利用助成（耕畜連携）	3	8,000	飼料用米生産ほ場の稲わら（基幹作物）	堆肥を施用した飼料用米圃場の稲わらを畜産農家に供給する。
8	地域振興作物助成	1	20,000	たまねぎ、長ねぎ、にんじん、そらまめ、青ねぎ、ブロッコリー、トマト、食用かんしょ、せり、子実用とうもろこし（基幹作物）	出荷・販売目的に対象作物を生産する。
9	土づくり助成	1	5,000	麦・大豆（基幹作物）	堆肥を施用し、出荷・販売目的に生産する麦・大豆 （団地面積300a未満及び団地を形成していないほ場）
9	土づくり助成	1	3,000	麦・大豆（基幹作物）	堆肥を施用し、出荷・販売目的に生産する麦・大豆 （団地面積300a以上）

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「○○○（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「○○○（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「○○○（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。